慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	まえがき
Sub Title	preface
Author	深海, 博明 大山, 道広 高梨, 和紘
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1991
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.83, No.特別号-II (1991. 3) ,p.1- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	矢内原勝教授退任記念論文集 : 国際経済学・ 地域研究
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19910301-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ま　え　が　き

本特別号は，41年もの長きにわたって慶應義塾大学に奉職されていた矢内原勝先生が，本年３月末に定年を迎えられ，退任されることを記念して，編集されたものである。しかし矢内原先生は，常々現役の研究者として，一生を過ごしていこうとする姿勢と覚悟とを示しておられる。従って本号は，退任記念論文集というよりは，むしろ第２の新たな研究および教育の人生のスタートをお祝いし，さらに一層の発展を祈念してのものというべきであろう。

しかも先生は，形式的・表面的な記念行事といったことは，お好きではない。それは，最終日にも最終講義といったものを拒否されて，通常の講義を淡々と進められて，最後の講義を終えられ，そのまま次の大学院の演習も通常通りになさり，しかも慶應読書会に出席されたという事実からも，読みとれるであろう。だが本号は，そうした先生のお気持ちは判ってはいたが，自然発生的に多くの人々の発議によって成立した。先生の教え子や関係者が，執筆を進んで希望してくれて，逆に一時は，希望者が多すぎてその収録に苦慮した程であった。まさにこの事実は，先生がこれ迄に着実に築いてこられた研究・教育の成果・実績を，如実に具現しているといえるであろう。

本来はこの冒頭のまえがきで，先生の御研究の成果，学会での御活躍，教育面での御実績等を紹介するのが慣例であろう。しかしそれは，退任者のあとがき以下に，先生御自身によってまとめられているので，ここでは重複をさけて，それに譲りたい。

しかし蛇足ながら，本特別号について，次の２つの事実をあえて指摘しておきたい。

１つは，通常こうした特別号の場合にも，寄稿された論文を，単に年功序列に従って掲載するといったスタイルを取りがちだが，先生の御希望を容れ，各論文の内容に即して，筋を通して編集したことである。これは，たとえこうした記念号においても，学問的な研究・分析を本質的に重視して，体系的・組織的に物事を整理・展開していこうとされる先生の基本姿勢を尊重し，活かしたものである。さらに収録されている論文の研究対象・範囲が，広範囲にわたっていることも，途上地域（なかでもアフリカ）を中心として，開発理論に基づき実証分析を目指し，数々の着目すべき見事な研究成果を挙げてこられた先生の御活躍を，まさに反映したものといえるのではなかろうか。

２つは，先生御自身が，現在も進行中のナイジェリアとザンビアにおける現地調査に基づいた研究論文を，寄稿されていることである。今回の御退任が１つの区切りにすぎず，一生現役の研究者であり，しかもアフリカのフィールド・サーベイにおいても，なお日本での第一人者であることの事実を明示されているばかりではなく，先生の精神的・肉体的な若さと意気込みとには，誰もが感嘆せざるをえないであろう。

あらためて，今後の御健勝と益々の御活躍とりわけ御研究の一層の進展を心からお祈りするとと

もに，御退任後も，我々後輩や教え子達に，刺戟・御指導・御鞭撻を変わりなく与え続けて下さることを，お願いいたしたい。

1991年1月

記念論文集編集委員会　深　海　博　明
大　山　道　広
高　梨　和　紘